

「子育て世代のワーク・ライフ・バランスを考える」 ～ただいま子育て真っ最中～



(座談会の様子)

「子どもと過ごす時間を増やしたいけれども、仕事も責任を持ってやらなければならない。」子育て世代の多くは、このような悩みを抱えているのではないのでしょうか。そこで、子育てと仕事に奮闘している5名のお父さん、お母さん方に集まっていただき、子育て期のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、工夫や大変さ、これから親になる人へのメッセージなど率直に話をいただきました。今回は、参加者から集約した主な意見を掲載いたします。これらの意見を参考に「子育てと仕事」にバランスよく取り組むためのヒントを探してみませんか？

ワーク・ライフ・バランスとは 一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった各段階に応じて多様な働き方を選択・実現できることを言います。

仕事をしながら子育ては大変

仕事と子育てを両立するために、保育園やファミリーサポートセンター、学童保育を利用したり、相互に助け合える友人の輪を広げるなど、あらゆる手段を活用しています。子育ての環境は少しずつ整ってきていると思いますが、子育てがまだまだしづらいつらいという思いがあります。例えば、学校や地域などの集まりが平日の昼間に開催されると、共働き世帯では、参加したくても難しい状況の時があります。片働きから共働きへと働き方が変わってきている状況で、それを支える社会の意識やシステムは、まだ対応しきれていないと思います。片働きが主流であった時代のものが、そのまま残っているのかもしれませんが、共働きが増えてきている現状を踏まえ、もう少し柔軟な社会に変えていく必要があると思います。

仕事と子育てを両立するための工夫

独身時代や子どもが生まれる前は、あまり時間を気にしないで仕事をしていましたが、子どもが生まれてからは、保育園等に迎えに行く時間までに仕事を終えなければならず、「時間は有限！」なのだということを感じています。必要に迫られてではありますが、集中して仕事に取り組む姿勢、効果的に仕事を行うという意識が自然と身についたと思います。

仕事と子育てを両立するための工夫

今日何をするか(TODO)リストを作り仕事の優先順位化
手帳で仕事と仕事以外のスケジュールを一元管理
夫婦でお互いの仕事の理解を図り、助け合う意識を持つ など

業種や規模によって取り組める内容が異なります。

【参加者プロフィール】

Aさん	30代男性団体職員	営業職	片働き	子ども2人
Bさん	40代男性会社員	報道関係	共働き	子ども2人
Cさん	30代男性公務員	事務職	共働き	子ども2人
Dさん	30代女性会社員	事務職	共働き	子ども2人
Eさん	40代女性会社員	営業職	一人親家庭	子ども1人

「おたがいさま」の雰囲気づくり

会社で仕事を進めるうえで、チームワークはとても重要です。1人ひとりがチームに貢献することは当然ですが、逆にチームのみんなに助けられる場面も多くあります。個人で仕事をしているということではなく、チームの1人として仕事をする意識が大切です。仕事と子育てを両立するために、職場の協力は不可欠であり、職場における「おたがいさま」の雰囲気づくりが大切だと思います。普段から子どもの状況などを話すようにしていれば、子どもが体調を崩して休みを取りたい時も、周囲の理解を得られやすくなります。仕事をうまく進めつつ、子育てと両立させる意味でも、日頃からの何気ないコミュニケーションはとても大切だと思います。



コーディネーター
NPO法人
宇都宮まちづくり市民工房
理事 岩井 俊宗 さん

これからお父さん、お母さんになる人たちへのメッセージ

Aさん：親は、「子どもの最大のファン」であると思います。子どもの成長を見守り、どんどん楽しんでいきましょう。

Bさん：育児などやりたいことをやれるように、努力して欲しい。やらずに悩むのであれば、自分のやりたいことをやるために、苦労したり、悩むほうが良いのではないのかなと思います。ある意味戦いみたいな部分もありますが、そういう姿勢が必要なのかなと思います。

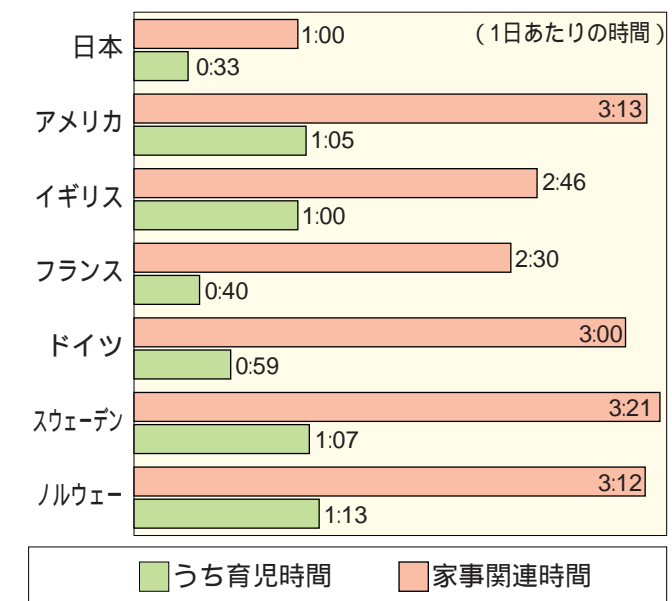
座談会のまとめ

コーディネーター：子育てをするときには、「今を楽しむ」「その瞬間、瞬間を楽しむ」という気持ちがとても大切だと思います。仕事と子育てが充実していた方がより一層人生を楽しめると思います。そのために、個人はもちろん、家族、会社、地域、社会全体がワーク・ライフ・バランスの意識を持ち、取り組むことが重要だと思います。将来社会に出る子どもたちのためにも、仕事と子育てを両立できる社会の実現に向けて、私たちが少しでも風穴をあけて、社会の流れを変えていければと思います。

座談会の詳細につきましては、平成22年3月末に市ホームページに掲載予定ですので、是非ご覧ください。

Cさん：子育ては辛い時もあるけれど、その中にある「楽しみ」を見つけるようにしましょう。自分の赤ちゃんを抱けるのは、赤ちゃんの時だけ。「今」やらなければ、後でやりたいと思ってもできません。そこに楽しみを見出せば、それほど辛くないと思います。
Dさん：子育ての話をできる人や機会を多く持つことで、親の悩みやストレスの解消につながりますので、出会う機会を大切にしてください。
Eさん：子どもが生まれる前は、「子育ては、すごく大変だよ」と周りから言われ、少し気が重かったのですが、生まれてからは、日々の子どもの成長が実感でき、子どもと一緒にいると「楽しいじゃない！」と思うことがたくさんあります。大変なことばかり強調されますが、辛いことより楽しいことの方がはるかに多いと感じています。

6歳未満児のいる夫の家事・育児時間



(出典)
1. 総務省「社会生活基本調査」(平成18年度)等より
2. 日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間である。